

NPO 法人静岡情報産業協会

静岡県議会議員との情報交換

日 時:2022年11月29日(火) 16:10~17:10

参加者:

① 県関係者

- ・静岡県議会議員 良知駿一氏
- ・静岡県経済産業部 産業革新局 産業イノベーション推進課長 遠藤 東氏

② SIIA関係者

- ・理事会出席者 11 名（オンライン=OL 参加を含む）
（理事）久保田光二、森永春二、齊藤弘幸、稲葉豊穂、小林裕敏
漆畑晃司(OL)、藤谷典宏(OL)、村松克己(OL)、松澤正典(OL)
（部会）米良直樹（事務局）桜井俊秀

開催主旨:

良知議員は、かつてIT企業に勤務していた。県議会議員になってからも県内のIT産業を盛り上げて行きたいという思いから、今のIT産業の実態を知り、それをもとに施策に反映した行きたいという考えにより本日の場を設けて頂いた。

意見交換会概要

① 良知議員自己紹介(プロフィール参照)

- ・自身の経歴を通じて、行政のIT化が進んでいないことを痛感
- ・日本全体のITについても、今でも「デジタルデバイド」が言われる状況にあることを改善していきたいと思っている
- ・県内の産業においてIT産業の比率が小さく、浜松と静岡でも差はあると思うが、今日は現況について伺いたい

② 遠藤課長から、県の施策について資料に基づいて説明があった
別添「静岡県 ICT 人材確保・育成の取組の概要」参照

③ 意見交換

- ・県内中小企業におけるDX化の取組事例の紹介に刺激を受けた
- ・事例紹介により、自分事として捉えることができ効果的だと思う
- ・ユーザー企業でIT人材を育成することの難しさに対して、県が人材育成を目指していることは評価できる

- ・デジタル化の進んでいない企業もある中で、AIに取り組むような高度な企業は目標が見えていると思うが、デジタル化が遅れている企業の底上げも求められるが思うようにいかないのが現状
- ・事例紹介により、幅広く知ってもらうことが必要ではないか
- ・県庁においても同様の状況で、進み方の遅速の振れが大きい
- ・中小企業のデジタル化において、ベンダーと企業の繋ぎを行う人材が不在
- ・本来、商工会議所や金融機関が伴走する際に、そこに対して「DX 推進コーディネーター育成講座」のようなものを開いてもらうと効果があるのではないか
- ・コーディネート人材の発掘・登用が求められる
- ・小規模企業でDXに対応することは困難
- ・時代の変化を敏感に捉え自ら変わっていくことを促すことが必要
- ・中小企業のDX化の実態を見ると、ベンダーと対等に渡り合える企業は希少
- ・DXの理論武装をさせても実務に結び付けるまでが難しいのが現状
- ・多くのユーザー企業はベンダーに大きく依存しているのが現状
- ・どのあたりまで教育していくか検討を要する
- ・気づいてもらい、関心を持っている人に対して、一緒になって動かしていく
- ・一歩踏み出すところを支援することが必要ではないか
- ・個別の活動ではなく、県で集約してベンダーの協力を得た方が良いのでは
- ・福岡に好事例がある
- ・インボイス制導入が一つのきっかけになると思う
- ・自分事にしてもらい、気づいてもらう機会を増やすべき
- ・ITリテラシーの高揚が求められる
- ・DX、AIが最早バズワードになっていて、多くの人に響かなくなっている
- ・県としてのICTの位置づけ、どこを目指すかという点が欠けている
- ・IT人材の育成のメリットを知らしめることが重要
- ・既存の産業を活性化するためにITを活用するという目標設定と発信が少ない
- ・どのように産業を盛り上げていくかという点で、ITを如何に活用していくか
- ・今日の議論を基に、今後の施策に反映させたい

<良知駿一氏プロフィール>

浜松商業高等学校・情報処理科 卒業

静岡大学・情報学部情報学科 卒業

静岡大学大学院・情報学研究科 修了

フォント関係のベンチャー(現在「モリサワ」に吸収)に就職

2019年より県議会議員